

『「教え方日本一」目指す開倫塾—首都圏、海外展開も視野に一』下野新聞 経済欄 2016 年 6 月 16 日(木)朝刊を読む

1. (1) 栃木、群馬、茨城 3 県で 59 校を展開する北関東屈指の進学塾で、塾生は小学生から高校生まで 6500 人(2015 年度ピーク時)に上る。「教え方日本一」を合言葉に拠点を増やし、首都圏進出や海外展開も視野に入れる。
- (2) 都内の大手予備校などで講師をしていた経験を生かし、29 歳で創業した。当時、足利市内だけで塾は 200 カ所。激戦区の市街地を避け、市南部で親族と始めた。指導力が口コミで評判を呼び、開設 1 週間で塾生は 70 人に増えたという。

2. 郊外から中心へ

- (1) 1984 年に法人化。「塾のないエリアでサービスを提供したい」との思いから、塾が少ない人口増加地区を中心に校舎を構える。郊外で認知度を高めた後、中心部に進出するといった手法も取り入れシェアを拡大。県内は 38 校、茨城県 13 校、群馬県 8 校となった。
- (2) 「学習塾は学校教育で不足する教育サービスを補う場」と考える。小学生クラスは平均 5 人、中学 3 年生クラスだと同 15 人程度を対象に学校の補習や受験指導を行う。学ぶ上で必要な語彙力や読解力、思考力を身に付けさせるため、塾生には読書や辞書、新聞の活用を勧め、漢字検定などの受検を奨励している。

3. 自ら学ぶ意欲を

- (1) 少子化による競争激化など環境が変化する中、独自の学習方針で差別化を図る。経済協力開発機構(OECD)の高等教育管理プログラムメンバーとしてパリで開かれるセミナーに参加。「国の方針を先取りした教育を取り入れている」
- (2) その一つが学力観だ。5 年ほど前に「学力とは主体的に学ぶ力」と定義した。講師が自身の成功体験や失敗談を伝える“武者語り”を授業に取り入れ、塾生の自ら学ぶ意欲を高める。講師の教える力量を上げるため、模擬授業に力を入れ、全国の塾講師が集う**全国模擬授業大会**も同市で毎年開く。
- (3) 今後は授業料見直しを検討するという。1 時間当たりの単価は「30 年前と変わらない」が、デフレが続く状況を踏まえ「1 こま当たりを下げる代わりに、多科目を取ってもらい売り上げ増になれば」と話す。
- (4) さらに、社会人も対象とする授業を本格化させる。現在、足利市内の 1 校で中学レベルの数学を外国人講師が英語で教える授業を行っているが、来年度は県内外 6 カ所に広げ、語学力向上のニーズに応える。
- (5) 校舎数も増やしていく方針で、県内と茨城県は全市町で開設を目指すほか、埼玉県や都内への進出を狙う。学習意欲が高いとされるスリランカなど海外展開も視野に、「2030 年までに国内外 300 カ所に新設したい」と展望を描く。

4. (1)〈本社〉 足利市堀込町 1 4 5

(2)〈創業〉 1979 年

(3)〈資本金〉 8 千万円

(4)〈売上高〉 16 億 5 千万円(2016 年 3 月期)

(5)〈従業員数〉 450 人

5. はやしあきお 1950 年、足利市生まれ。慶応大法学部卒。弁護士を目指し、29 歳まで同学部付属の司法研究室の研究生として法律を学びながら、予備校講師などで生計を立てていた。週に 16 軒の家庭教師をしていたこともあり、「一番得意なのは家庭教師」と冗談めかした。座右の銘は「一生勉強、一生青春」。実家の近所に住んでいたという書家で詩人の相田みつをの言葉だ。趣味は読書。経済、教育、古典など週に 2、3 冊を読んでいる。

<コメント>

2016 年 6 月 16 日(木)の下野新聞、経済欄、「成長への設計図」で、開倫塾が「教え方日本一を目指す」とのタイトルで特集され、紹介されましたので、ご覧いただきたくお願いいたします。

約 1 か月かけての取材で、鹿沼東校をお借りしてインタビューと撮影が行われました。ご協力いただいた社員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

— 2016 年 6 月 19 日(日) 林 明夫記 —